

上田青年会議所は設立 60 年目を迎えます。60 年間地域の若者が同じモチベーションを維持し切磋琢磨してきたことの偉大さを改めて感じています。

長年活動し続けていく中で、どんな想いをもちどんな目的で行っているのか、きちんと仲間と地域に伝えてきた結果が地域での理解や存在価値につながっていると感じます。伝えたいことが伝わり心動かすことができるかどうかは、伝えたい内容が持つ力が洗練されていることと伝える手段が適切かつ豊富かどうかが重要になると考えます。仲間に、そして地域に伝えたいこと自身がきちんと力をもって伝えられる能力を磨き続けていくことが長くモチベーションを維持し若者を引き付けていくために大切と感じます。

一方、長く続いていくためにも変化する時代に合わせて、人も技術も全て変化していくことが大切という考え方があります。現代の考え方に合わず大勢に理解を得られない古い事柄は、都度修正を行うことも大切でしょう。ただ、活動の芯の部分、いわば「青年会議所とは」の部分に変化し続けてしまったら、長い年月の間に青年会議所は違う組織になってしまったのではないかと感じます。「青年会議所とは」を我々自身がまず理解し、それを維持し伝えていくために何が必要なのかを今一度考え、守るべきことはその理由を自分の胸に落とし込み、仲間に伝えていくことで、60 年間続いてきたのだと考えます。そしてさらに大切なのは、情熱をもって当たり前のことを当たり前にこなしていくことだと感じます。想いは伝道します。

目立たない行動にすら想いを宿し、細部に込められた熱い想いが寄り集まることでその集合である活動自体が力をもって輝き始める。

それを胸に着実に LOM 運営を行ってまいります。